

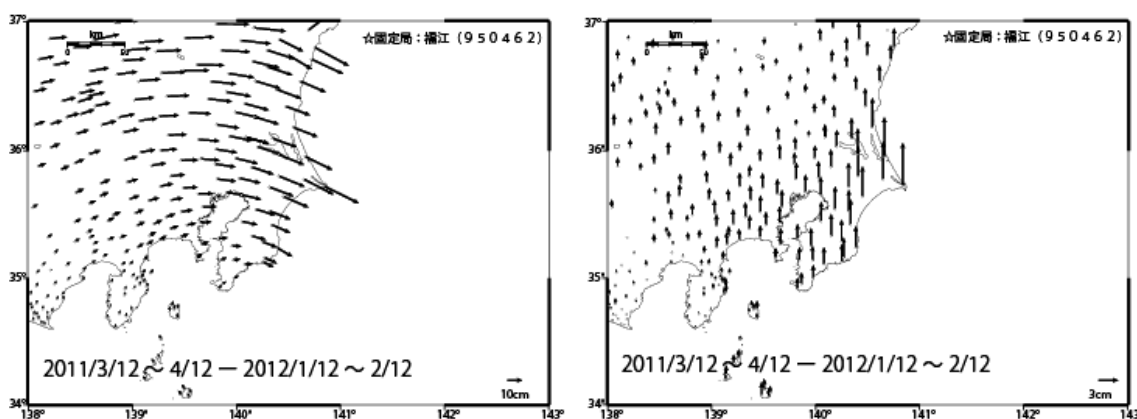
12 - 13 東北地方太平洋沖地震後の関東地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kanto District after the Pacific Coast of Tohoku Earthquake

国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan

東北地方太平洋沖地震後の関東地方の地殻変動に関する検討を行った。その結果、関東地方では、地震後に東方向への変動が数十 cm 程起きておりかつ隆起が 2-5 cm 程 2011/3/11~4/12-2012/1/12~1/12 までに起きていたことが明らかとなった。この地震後の変動は太平洋プレートの上面での余効滑りによって説明できるのか、それとも関東地方に存在するフィリピン海プレート上の滑りも必要なのかどうかを検証してみた。その結果、太平洋プレート上面の滑りだけを考慮したモデルよりも、フィリピン海プレートの滑りをいれたモデルのほうが ABIC で凡そ 50 程小さくなることが示され、フィリピン海プレート上面の滑りをいれたほうが統計的にはよりよいモデルになることが示された。



第 1 図 東北地方太平洋沖地震後の関東地方における余効変動。左が水平、右が上下を示す。固定点は福江。

Fig.1 Postseismic deformation of the Pacific Coast of Tohoku Earthquake. A left figure shows horizontal displacements, while a right figure shows vertical displacements.

第 1 表 フィリピン海プレートをいれたモデルとそうでないモデルの ABIC

Table1 Comparison of ABIC between a model which uses the Pacific plate only and a model which incorporates the Philippine Sea plate.

	ABIC	残差
太平洋プレートだけのモデル	-3910	0.000030
フィリピン海プレートをいれたモデル	-3964	0.000028